

iGRID
SOLUTIONS

会社紹介資料

2026.6 update

株式会社アイ・グリッド・ソリューションズ

目次

Introduction

アイ・グリッドとは	
• COMPANY PROFILE	3
• MISSION	4
• VISION	5
• CULTURE	6
• SUSTAINABILITY	7
• COMPANY BACKGROUND	8

Achievement

アイ・グリッドの実績	
• オンサイトPPA実績	10
• オンサイトPPA発電容量	11
• 受賞歴	12

Business

アイ・グリッドの事業	
• 事業／サービス	14
• 参考：PPAとは	15
• GXソリューション提案コンセプト	16
• 余剰電力循環スキーム	17
• エナジートレーディング	18
• R.E.A.L. New Energy Platform® 主な3つの機能	19
• TECHNOLOGY R.E.A.L. New Energy Platform® とは	20

Future

アイ・グリッドの将来構想	
• アイ・グリッドラボとは	22
• 事業構想「GX City®」	23
• 「GX City®」実現ステップ	24

CORPORATE SLOGAN 「変化より、はやく」

Introduction

アイ・グリッドとは



社名 株式会社アイ・グリッド・ソリューションズ
 (英文) i GRID SOLUTIONS Inc.

代表取締役社長 秋田 智一

本社所在地 東京都港区虎ノ門二丁目4番7号

資本金 4,996百万円 ※資本剰余金含む(2025年6月末現在)

事業概要

- ▶ 分散型エネルギー資源等を統合活用可能なプラットフォームの開発・運営
- ▶ オンサイトソーラー発電所の開発・運営及びそれらの支援・コンサルティングサービス
- ▶ 蓄電池やEV関連サービスを含む、GX(グリーントランスフォーメーション)促進に係る各種サービス提供
- ▶ 再生可能エネルギー資源の効率的な使用/循環を目的としたエナジートレーディングサービス

従業員数 131名(2025年6月末現在)

設立 2004年2月

事業所 中部支社、関西支社、九州支社

主要株主 伊藤忠商事株式会社
 関西電力株式会社
 東急不動産株式会社
 金融機関(大手リース会社等)
 THE FUND投資事業有限責任組合

取締役



代表取締役社長
秋田 智一



取締役会長
本多 聰介



取締役執行役員
加田木 太朗



取締役執行役員
川野 裕介

所属機関

経済産業省 小売電気事業者 登録番号A0060
 経済産業省 特定卸供給事業者 登録番号 83
 日本卸電力取引所(JEPX) 取引会員
 日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP※) 正会員
 気候変動イニシアティブ(JCI) 参加
 GXリーグ 加盟

※日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)とは「脱炭素社会」への移行をビジネス視点でとらえ、個別企業の枠を超えた活動活動する目的で2009年に設立された日本独自の企業グループ。

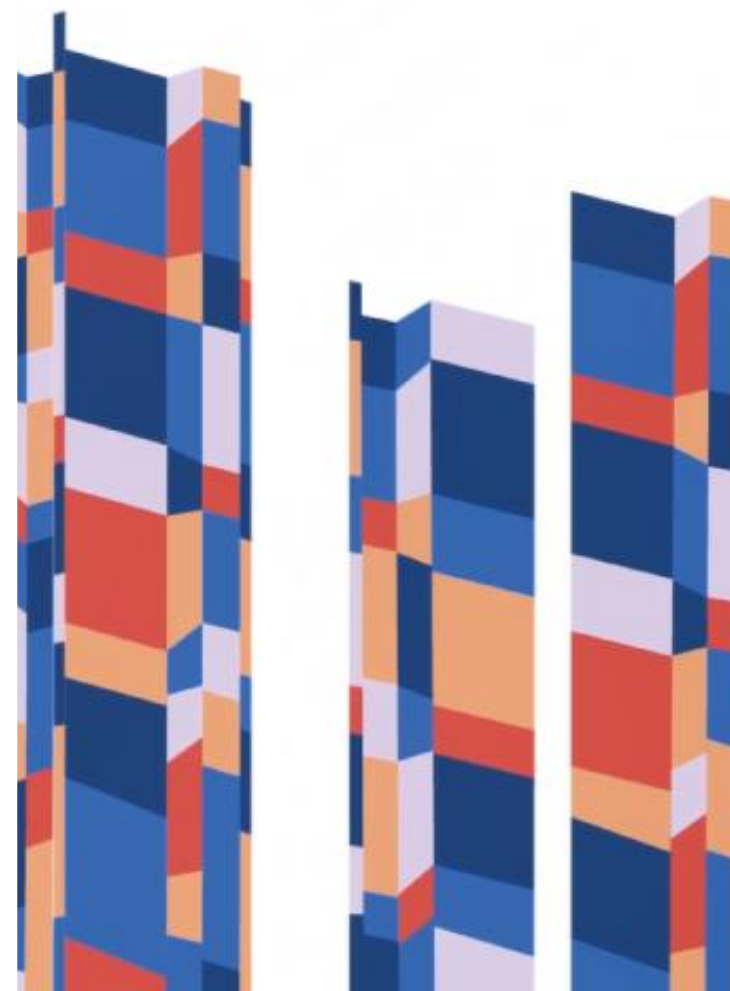


NEW Energy Partner

明日のエネルギーをあなたとつくる

これまでのインフラとしてのエネルギーから、お客さま一人ひとりの課題を解決し願いを叶える「サービスとしてのエネルギー」へと、私たちはエネルギー業界の提供価値を変革していきたいと考えています。目指すのは、暮らしをより豊かに快適にすることと、豊かな地球環境が続いていくことを等しくできる事業の実現です。

「ニュー・エナジー」とは人や企業、社会、そして地球を「生き生きとさせる活力」である、私たちはそう考えています。アイ・グリッド・ソリューションズはお客さまのパートナーとして、共に明日のエネルギーをつくりだしていきます。



R.E.A.L. New Energy

グリーンエネルギーがめぐる世界の実現

私たちは「R.E.A.L. New Energy」を届けます。真の再生可能エネルギーを経済的な価格で供給する。分散集約と地域循環で、環境と暮らしを守る。それは新しいエネルギーのあり方です。

いつでも、どこでも、誰にでも、クリーンな電力がめぐる社会を。地域をめぐりエネルギーがライフサービスへと進化する未来を実現していきます。

Renewable

限りある森林を壊さないような太陽光発電の拡大を推進し、デジタルテクノロジーの活用で、グリーン電力を余すことなくめぐらせ、再生可能エネルギーが普及するサステナブルな社会を実現していきます。

Economical

集約した Non-FIT の再生可能エネルギー電力を供給。再エネ由来でありながらリーズナブルな価格で、電力をご家庭や施設にお届けします。

Aggregate

林地開発の必要がなく、かつ電力系統の混雑を緩和するオンサイト PPA の導入を拡大。自家消費しきれない余剰電力を需給調整プラットフォームで集約し、再生可能エネルギーを最大限活用します。

Local

施設で消費しきれない電力を蓄電池や EV に充電し、夜間や災害停電時でも使える電源として活用することができます。さらに再生可能エネルギーの地域循環利用で、地域のレジリエンス強化に貢献します。



2

300

失敗・挑戦の歴史

時代を先取りし、成功したビジネスがあるから今のアイ・グリッド・ソリューションズは存在する。

しかし、今までにビジネスの発想・企画は山ほどあったが、成功したのはわずかである。300の企画があれば、成功はたった2つしかない。

大切なのは分母を多くすること。300の企画で2つの成功なら、600の企画で成功は4つになる。

発想・企画が多いほど、成功例も増えるという考え方である。それは、企業と人を強くするための方法論。さらに発想・企画を、ビジネスやシステムにする実行力も必要である。

「夢の実現に挑戦するために、頭と体に汗をかく」。
それがアイ・グリッド・ソリューションズ全社員の姿勢である。

アイ・グリッド イメージキャラクター
プロスケートボーダー 堀米雄斗選手



アイ・グリッドでは、自分たち自身もサステナブルでありながら、自治体・企業・地域社会のみなさまと一緒に、持続可能な社会を共創したいと考えています

Business

自然を傷つけない・
壊さない事業

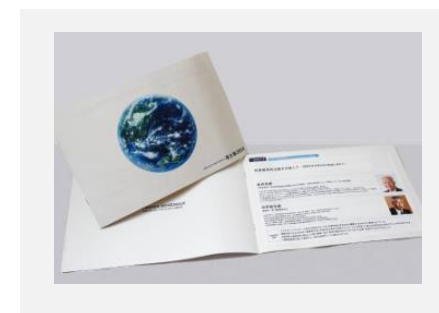


アイ・グリッドでは2017年から商業施設の屋根を活用した分散型太陽光発電事業を開始。それから今日まで、木を1本も切ることなく、再エネ自給率最大化を実現しています。また、地域の脱炭素を推進するアライアンスにより、「エネルギーの地産地消」を叶えています。

Collaboration

GX・脱炭素を共創する取り組み

日本を代表する講師陣と高度環境人材を育成する「環生塾」の立ち上げ、共に社会システムの変革へ挑戦する機関への加盟や賛同、エネルギーの未来について研究し発信するオウンドメディア「グリラボ」の運営など、社会と共創しGXを推進する活動を多数行っています。



Well-being

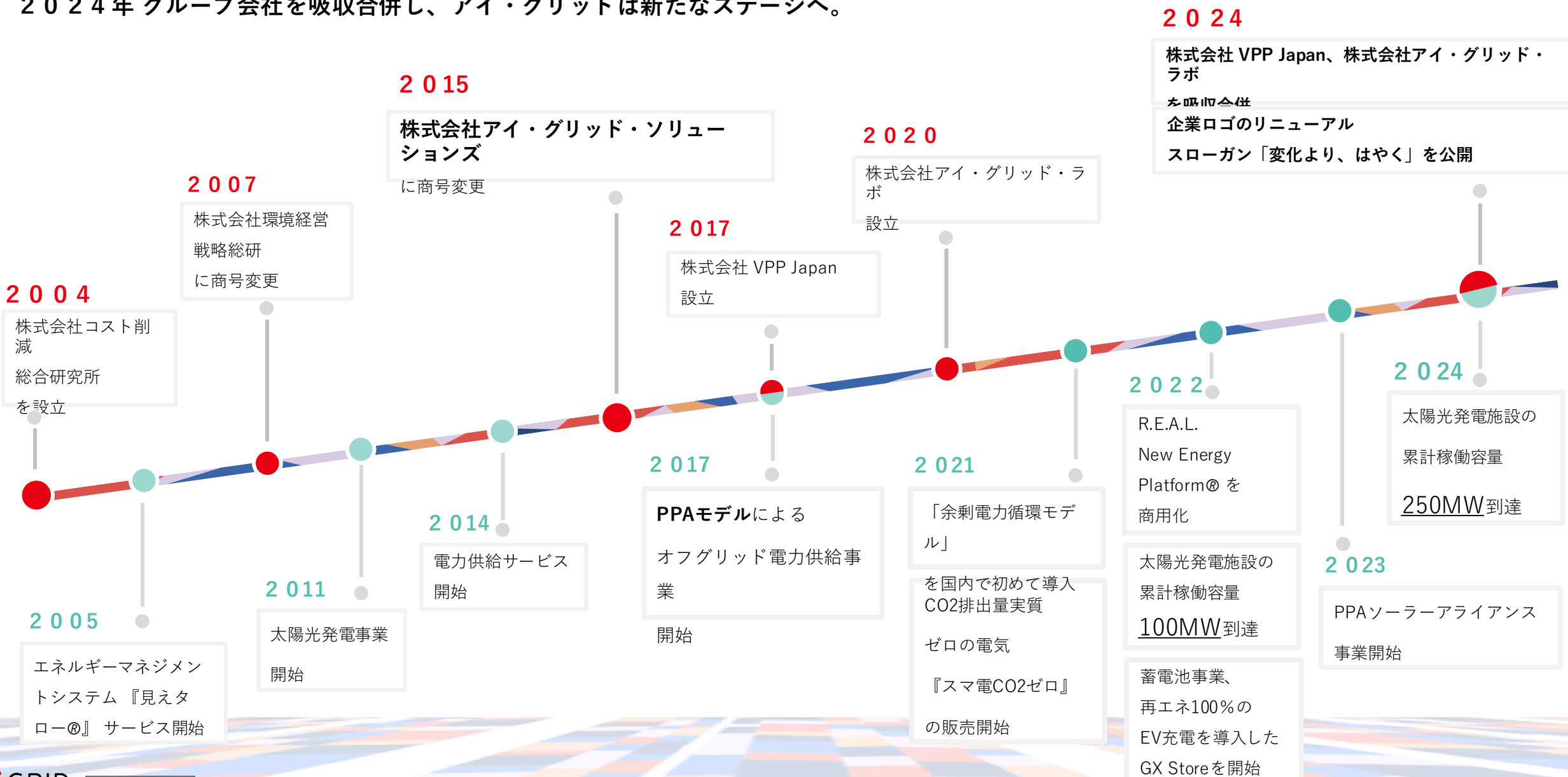
わたしたち自身の可能性を最大化

エネルギーシステムのサステナビリティを目指し、「持続可能な企業活動/社員の働き方」を追求し、活力がめぐる組織につながる「学び」「多様性」を軸としたウェルビーイング経営を実践しています。それが、アイ・グリッドのウェルビーイング「i being-アイ・ビーイング-」です。



COMPANY BACKGROUND

2024年 グループ会社を吸収合併し、アイ・グリッドは新たなステージへ。



Achievement

アイ・グリッドの実績



オンサイトPPA実績

全国46都府県で分散型発電所を保有 / オンサイトPPA国内実績No.1(※)

稼働済み
発電所

国内実績 3年連続 **NO.1**

2026年5月末
時点

1,436 施設 / **364** MW

PPA
契約先

2026年5月末
時点

390 社 ↑

Solar Power

※富士経済 2024年版 太陽電池関連技術・市場の現状と将来展望 / 第三者所有モデル (PPAモデル、リース) ・非住宅 (10kW以上) ・2023年度実績
上記に加え、下記2調査でもシェアNo1を獲得
・富士経済 再生可能エネルギー発電システム・サービス市場 / 参入企業実態調査2022 第三者所有モデル (PPA、リース) 部門、非住宅(10kW以上) ・2021年度実績
・富士経済 2023年度 太陽電池関連技術・市場の現状と将来展望 第三者所有モデル (PPA、リース) 部門、非住宅(10kW以上) ・2022年度実績
※実績数値にはPPAアライアンスの実績も含まれます。

※PPA以外の太陽光発電所の開発実績 : 52施設/34MW (2026年5月末時点)

サービスを導入いただいたお客様

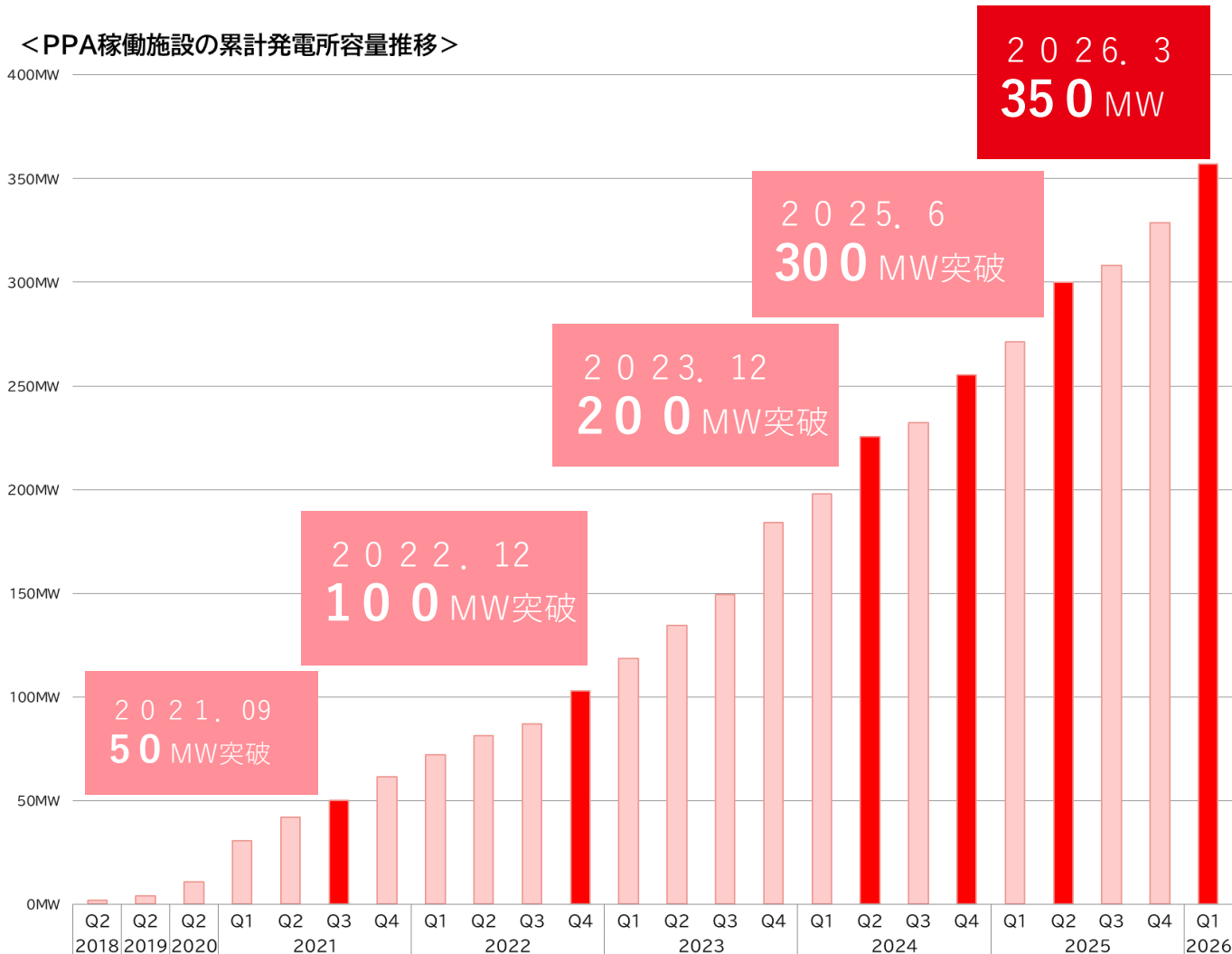


許可を頂戴した一部のお客さまのロゴを掲載させていただいております (順不同)

オンサイトPPA発電容量

オンサイトPPA 発電容量（累計）

<PPA稼働施設の累計発電所容量推移>



46 都府県に分散型発電所を保有

1営業日ごとに**1.5**発電所を稼働するペースで拡大

稼働施設の発電容量 **330 MW**

設置面積(概算) **3,301,914 m²**

東京ドーム換算 約**70**個分 ※2026年1月時点

CO₂削減効果 **138,930 t-CO₂/kWh**

→約**8.3**万世帯分の年間電力使用から排出されるCO₂量に相当。

(令和5年度 CO₂排出実態統計調査より算出)

自然を壊さずに再エネを広げる取り組みが評価され、様々な賞や評価をいただいています

2021年

[環境省 グッドライフアワード]

環境大臣賞 最優秀賞 受賞



【受賞の理由】

自立分散型の太陽光による再生可能エネルギーにテクノロジーを活用し国内に広く展開している施設の屋根を有効活用し、災害にも強く、効率よく自然の負荷がかからずに地域と自然が守られるという循環をすでに事業として体現している

2022年

[環境省 気候変動アクション]

環境大臣賞 表彰



【受賞の理由】

分散型太陽光発電システムによる「再生可能エネルギーの余剰循環モデル」が、気候変動の緩和に対する継続的な取り組みとして評価され、先進導入・積極実践部門で受賞

2023年

[新エネ大賞]

新エネルギー財団会長賞 受賞



【受賞の理由】

分散型太陽光発電システムによる「再生可能エネルギーの余剰循環モデル」が、分散型新エネルギーの先進的な取り組みとして評価され、分散型新エネルギー先進モデル部門で受賞

2023年

[日本企業として初めて]

GX Unicorn 選出



NIKKEI GXが、脱炭素分野で急成長する世界の有カスタートアップとしてリスト化した「GX Unicorn」に、日本企業として初めて選出された。(旧 VPP Japan) 融資を含めた累計調達額が238億円に上ったことなどが要因で、新たにリストに加わっています

その他
受賞歴

第8回日本環境経営大賞（環境価値創造部門）「環境価値創造賞」受賞 / 第6回エコプロダクツ大賞（エコサービス部門）「審査委員長特別賞」受賞 / 第3回ニッポン新事業創出大賞（アントレプレナー部門）「最優秀賞」受賞 / アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー【EOY】【スタートアップ部門】ファイナリスト受賞 / Eco japan cup 2007【ビジネス部門】「敢闘賞」受賞 / 2020年度省エネ大賞「省エネルギーセンター会長賞」受賞 / 2021年度 第3四半期 Mizuho Innovation Award 受賞 / 「第10回プラチナ大賞」優秀賞 GX社会賞を受賞

Business

アイ・グリッドの事業



企業や自治体の再エネ自給率を最大化するGXソリューション事業、余剰再エネを循環 / 供給するエナジートレーディング事業を営んでいます

GX ソリューション 事業

統合的なGXソリューションの提供により、地域や企業の脱炭素化を加速させ、その先にある新しい成長を支援します。

クライアントソリューション

PPA/TPOサービス

最大限に再エネを発電させる「余剰電力循環スキーム」で、再生可能エネルギー自給率アップと電力コスト削減を実現

インテグレーションサービス

蓄電池導入など、災害時にも強い次世代型施設「GX Store®」や「GX Logistics®」の構築などをサポート

その他

EV充電システム導入など

アライアンスソリューション

地方自治体・金融機関・地域企業など、提携パートナーとの

アライアンスによって、各地域の脱炭素化を推進

エナジー トレーディング 事業

CO2ゼロ電力を供給することで、電力供給サービスを通じて環境に優しいエネルギーをめぐらせることに貢献します。

家庭向け

スマ電 CO₂ゼロ

再エネの活用と、売り上げの一部を投資して太陽光発電所の新設を行う、電気を導入するだけで、脱炭素エネルギーの普及につながるプランを提供

法人向け

CO₂ゼロの法人向け電力プランを提供

参考：PPAとは

PPA（Power Purchase Agreement：電力販売契約）とは、経済的に再エネ調達ができる脱炭素に不可欠な電力供給サービスです

Point



初期投資・
維持管理ゼロ



脱炭素・
再エネ調達



電力コスト削減
・安定化



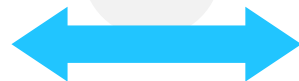
停電時の補助電源
・BCP対策

アイ・グリッドがお客さまの建物屋根に太陽光発電設備を設置。発電した電気はその施設へ直接供給・消費し、お客さまから電力使用量をお支払いいただく仕組みです。

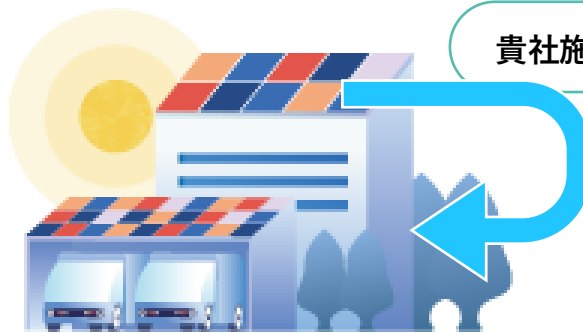
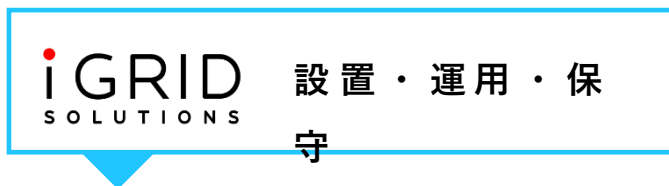


PPA事業者

PPA
(電力購入契約)



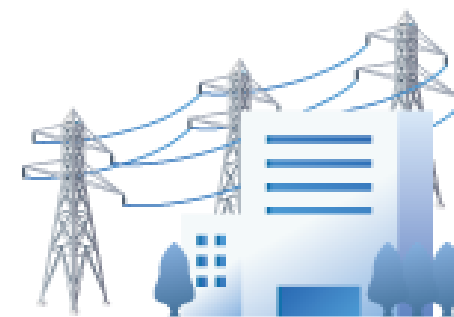
電力利用料
支払い



貴社施設で利用

貴社施設 (設置・需要場
所)

不足分は
系統電力から供給



現在ご契約の電力会社

ルーフトップ/カーポート太陽光、蓄電池、EVチャージャーを備えた新時代の店舗構想を、流通小売企業さま向けに提案しています

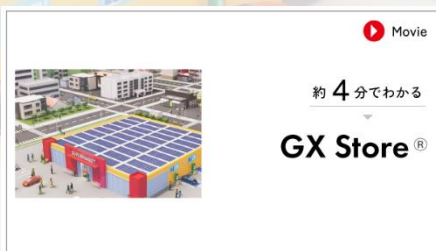
施設の再エネ発電を最大限に高める次世代施設構想

- 再エネ先進企業への転換
- BCPの強靱化
- 新時代・新生活のリーダーへ

GX Store



GX Store動画はこちら
(全画面表示で画像クリック)



GX Logistics



GX Logistics動画はこちら
(全画面表示で画像クリック)

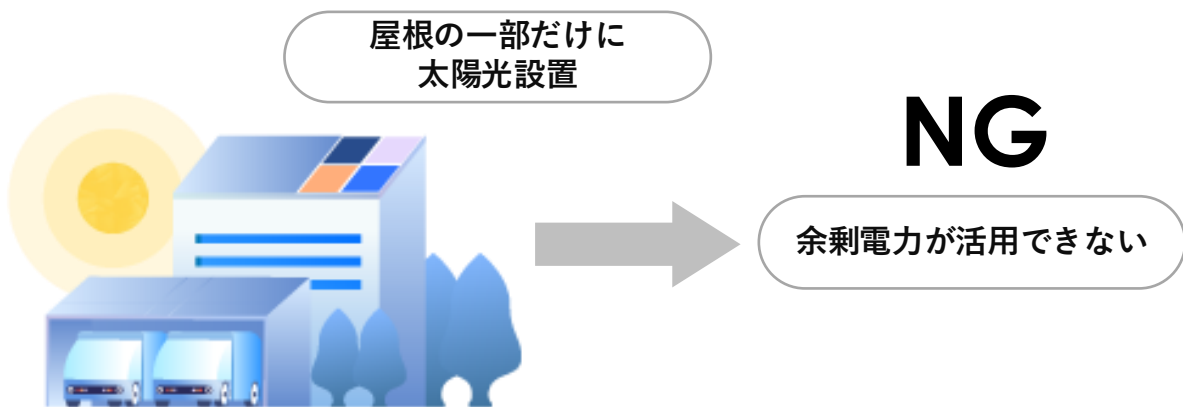


余剰電力循環スキーム

GXソリューション事業、エナジートレーディング事業、プラットフォームの3つを活用し、消費しきれない余剰電力を余すことなく循環させ、再エネ自給率最大化させることができるのが、余剰電力循環スキームです

一般的なスキーム

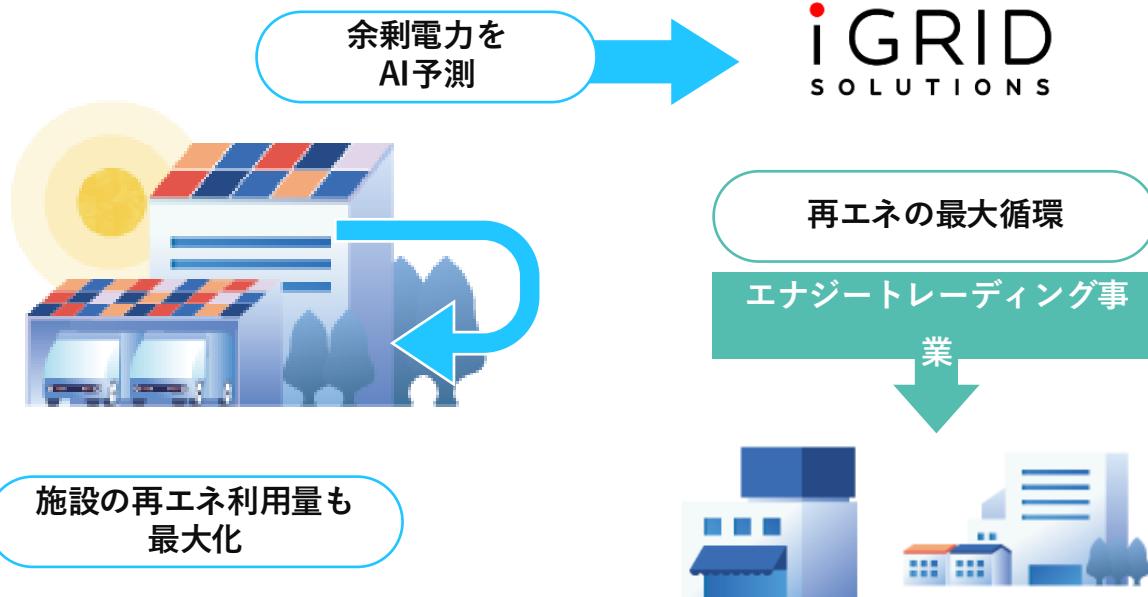
一般的なスキームでは、コントロールが難しい余剰電力を出さないように太陽光を設置。本来の発電ポテンシャルを活かせず、再エネが循環していきません。



余剰電力循環スキーム

施設で使いきれない余剰電力量をAI予測し、アイ・グリッドが電源として活用。他需要家へ電力供給します。これにより、屋根ポテンシャルを無駄にしないソーラー設置と再エネの最大循環の双方が可能になります。

GXソリューション事業



再エネを地域でシェアする法人向け「循環型電力」や家庭向け電気料金プラン「スマ電 ウィークエンドゼロ」により屋根上太陽光から生み出された余剰再エネの一部をご契約者さまにお届けするなど、エナジートレーディング（電力供給）を通じて、環境に優しいエネルギーをめぐらせています

“置かない”太陽光



循環型電力

商業施設や物流施設といった建物の屋根を利用し、全国各地に太陽光発電所を建設。野山など自然を壊さずに再生可能エネルギーを生み出しています。エナジートレーディングからいただいた収益の一部を太陽光発電所の新設に活用するスキームにより、電気を契約いただくことが再エネを増やす活動につながっています。また、屋根上太陽光から生み出された再エネの一部をスマ電ウィークエンドゼロ／スマ電CO2ゼロのご契約者さまにお届けするなど、環境に優しいエネルギーを一般家庭等にもめぐらせています。

土日昼間の0円に。
電力量料金単価が0円に。

9:00 15:00

NEW
ウィークエンドゼロ登場！
土日(9時~15時)電力量料金単価 0円※

※本プランにおいて「0円」は電力量料金単価を指します。再生可能エネルギー発電促進賦課金、燃料費等調整は別途発生します。土日とは、原則として土曜日・日曜日を指し、祝日は対象外です。

弊社イメージキャラクター
堀米雄斗
(プロスケートボーダー)

スマ電ウィークエンドゼロ（家庭向け電力供給サービス）

1 画面でリアルタイムに再エネ自給状況を可視化

気象データ／電力需要予測／太陽光発電量／蓄電池やEVの充放電／CO2削減量など



2 様々な電力設備を統合的に最適管理

蓄電池／EV／その他の電力設備など



3 消費しきれず余った再エネは他施設へ

他拠点／グループ会社／地域住民など



TECHNOLOGY - R.E.A.L. New Energy Platform® とは

R.E.A.L. New Energy Platform®は、先進技術を融合したアイ・グリッド独自のプラットフォームです。

全国に散らばるオンサイトソーラー、蓄電池、EV充電設備、エネマネシステム、需要家をAI基幹システムとつなげ、分散型のエネルギーネットワークを構築。再生可能エネルギーが循環する基盤となっています



本プラットフォームを通じ
全国各地でVPP発電所が稼働中

再エネをつくるから使うまで。
不安定な太陽エネルギーを、
ビッグデータとAI予測で最適化



Future

アイ・グリッドの将来構想



脱炭素社会の未来をデザインする

「アイ・グリッド・ラボ」

アイ・グリッド・ラボは、少し先の社会をデザインし、新たなビジネスの種を生み出すビジネスラボです。多様なプロフェッショナルとの共創によって、未来社会を構想し、その実装に向けたビジネスデザインや技術開発・実証を繰り返しながら、エネルギーや未来のライフスタイルの可能性を探索しています。

i GRID LAB

COLLABORATION



エネルギー
×
データサイエンス

エネルギーをはじめとするデータ活用で、再エネの地域循環モデル構築に取り組んでいます。



ライフスタイルデザイン
×
地域

自治体や地域企業と共に、地域脱炭素社会における新たな暮らしの創造に取り組んでいます。



ビジネス
×
アカデミー

大学・研究機関との共同研究やインターンシップを通して、次なる社会をデザインしていきます。

事業構想 「GX City®」

「GX City®」とは、再エネの地産地消を実現し、自然を傷つけない地域の脱炭素化・レジリエンス強化・経済活性化、生活利便性・快適性の向上を、地域企業や自治体と一緒に目指す都市のあり方です

GX City

自然を壊さずに
再エネをつくる

地域循環で再エネ
自給率の高い街づくり

誰でもいつでも安心して
エネルギーを使える都市

エネルギーや産業構造の脱炭素型への転換によって新たな競争力を生み、成長へと繋げていくGX（グリーントランスフォーメーション）が求められています。

GX Cityが実現することで、地域の魅力を向上させ、人も経済も活性化していく、それがこの事業構想の目指すところです。

「GX City[®]」 実現ステップ

日本各地のGXを推進するプラットフォームとしてGX Cityの実現を目指していきます

1

自然を壊さない
オンサイトソーラーの導入拡大



屋根上に加えてカーポート型ソーラーも活用し、新たな土地開発を必要としないオンサイトソーラーの導入を拡大します。さらに、ペロブスカイト太陽電池を取り入れた工法の開発によって導入量の増加を目指すほか、蓄電池、商用EVの導入も推進していきます。

2

地域アライアンスの拡大で
分散型電源の導入を加速



オンサイトPPA事業、GXテクノロジーに、地方自治体や地銀とのアライアンスによる持続的なファイナンスを組み合わせ、地域への分散型電源の導入によるエネルギー地産地消サイクルの構築を加速させます。

3

EVシフト対応と蓄電池導入の
両輪で太陽光を最大活用



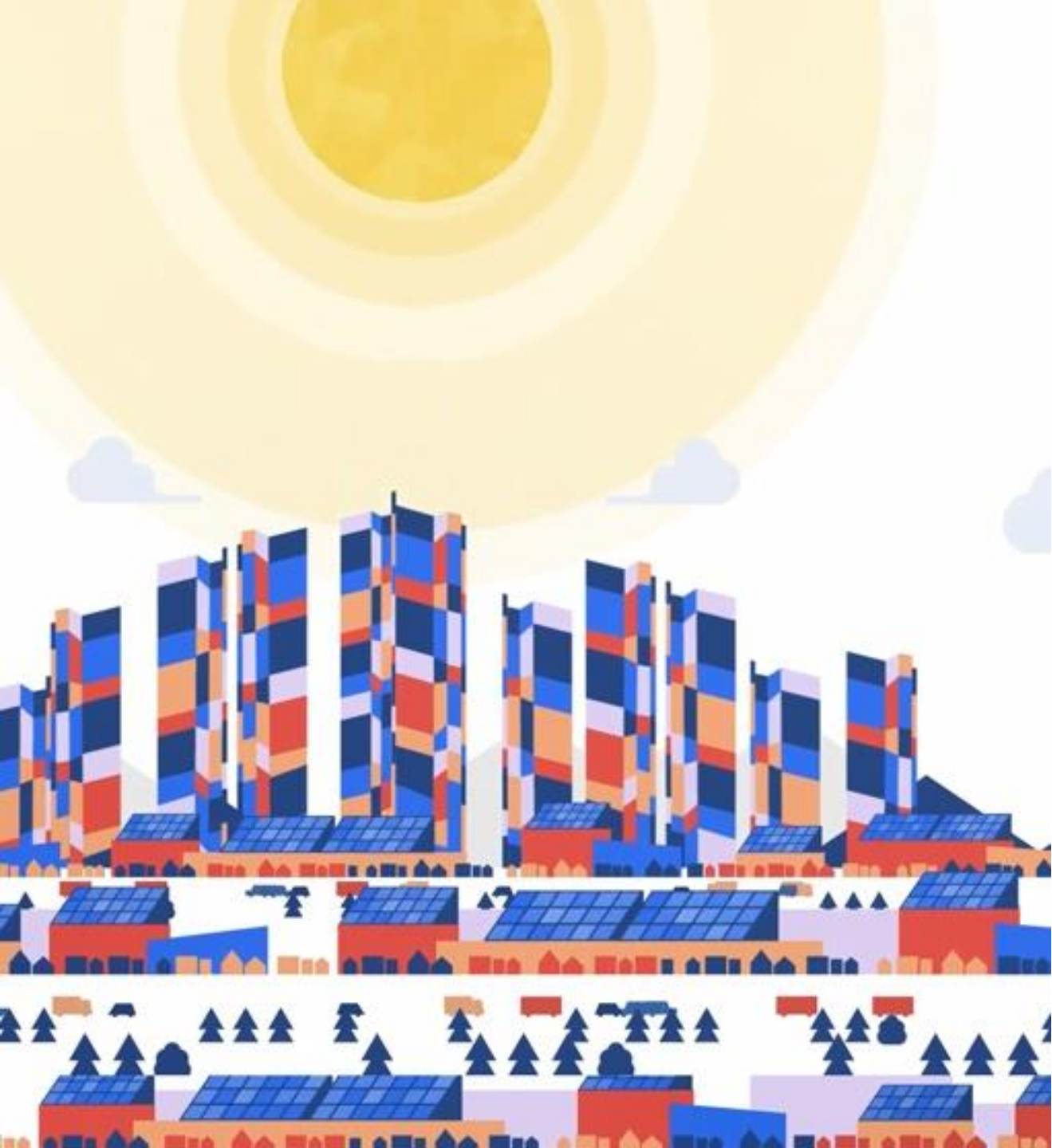
蓄電池の導入を推進することで、太陽光の活用を最大化します。蓄電池の導入に加え、太陽光発電システムとV2Hを組み合わせ、普及が進むEVを蓄電池として活用していくことで、社会コストを抑制した形で再エネ普及を後押しします。

4

需給バランス調整で分散型再エネを
地域全体で余さず活用



「R.E.A.L. New Energy Platform[®]」で、地域内の需給バランスを調整します。余剰電力の地域循環、EVの充電マネジメントをはじめ、発電量が不安定な太陽光を余さず活用することで、地域の再エネ自給率を最大化し、「GX City」の実現を加速させていきます。



変化より、はやく

はじまりは一つの想いでした。
いつもがむしゃらに動き回っていたら
自由な発想、多様性を認め合う仲間が
少しずつ集まってきました。

人とのつながり、地域とのつながり、
そして社会とのつながりを大切にしながら、
私たちは成長してきました。

目まぐるしく変わるこの世界の中で
だれよりもしなやかに、自由に。

脱炭素というテーマをこえて
ワクワクする未来を描き
人へ、街へ、そして社会へ
多彩な驚きを届けてゆきます。